

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：32633

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K17546

研究課題名（和文）がん罹患後に離職した就労世代のがん患者に対する支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a nursing care program for cancer patients regarding employment

研究代表者

小林 成光（KOBAYASHI, Masamitsu）

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・講師

研究者番号：10751414

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムを考案及び精練し、看護支援プログラムを開発することである。研究は、就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムの考案（研究1）、精練（研究2）、実現可能性の評価（研究3）の手順で行った。その結果、本看護支援プログラムは、就労を継続する通院治療中のがん患者に対して有用である可能性が示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多くのがん患者は、がんの診断やその治療に伴い、長期間にわたる身体的、精神的な苦痛を抱えており、これらの苦痛は、就労継続を困難にさせている。がんの診断とその治療が影響し、就労継続に苦痛を抱えている患者を支援するためにも、通院治療中のがん患者の就労に関する問題に着目し、看護支援を検討することは重要であると考えられる。本研究は、がん患者の就労支援や医療環境や社会環境への提言を含む支援をより充実したものにすることで研究成果を輩出するものである。

研究成果の概要（英文）：This study aims to design, elaborate, and evaluate a nursing care program for continuous employment of patients with cancer undergoing outpatient treatment. Three separate studies were conducted within a broader study as indicated below.  
Study 1: Design of the nursing care program for continuous employment of patients with cancer undergoing outpatient treatment. Study 2: Elaboration of the nursing care program for continuous employment of patients with cancer undergoing outpatient treatment. Study 3: Verification of feasibility of the nursing care program for continuous employment of patients with cancer undergoing outpatient treatment.

The results suggest that this nursing support program may be helpful for continuous employment of patients with cancer undergoing outpatient treatment.

研究分野：がん看護

キーワード：がん 就労 看護支援プログラム

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

我が国では、がん患者全体の 1/3 が 20 歳から 65 歳の年齢でがんと診断されており、結果として多くのがん患者が治療を受けながら就労を継続している現状がある。また、若年がん患者の増加や定年年齢の引き上げが相まって、がん治療を受けながら就労を継続するがん患者は、今後より一層増加することが見込まれている。一方で、多くのがん患者は、がんの診断やその治療に伴い、長期間にわたる身体的、精神的な苦痛を抱えており、これらの苦痛は、就労継続を困難にさせている。がんの診断とその治療が影響し、就労継続に苦痛を抱えている患者を支援するためにも、就労を継続する通院治療中のがん患者へ焦点を当て、看護支援を検討することは重要であると考えられる。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムを考案及び精練し、看護支援プログラムを開発することであった。

### 3. 研究の方法

#### 研究 1：就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムの考案

##### (1) がん患者を対象とした就労継続・職場復帰に関する文献レビュー

第 1 段階では、国内外のがん患者に焦点を当てた就労継続・職場復帰に関する心理教育的支援の支援内容を明らかにし、就労を継続するがん患者の看護支援プログラムを考案するための一助とした。第 2 段階では、患者中心の視点からケアを検討するために、我が国における就労を継続している通院治療中の就労世代のがん患者の体験を統合し、がん患者の就労継続に関連する要因を明らかにした。

##### (2) 就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムの考案

第 3 段階では、第 1 段階と第 2 段階の結果を統合し、がん患者に生じている現象を説明し、看護支援モデルを考案した。この看護支援モデルに基づき、我が国における就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムを考案した。

#### 研究 2：就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムの精練

その後、第 1 段階から第 3 段階の結果に基づき、考案した就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムの内容を臨床経験が豊富な看護師を対象にフォーカスグループインタビューを実施し、考案した看護支援プログラムを精練した。

#### 研究 3：就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムの開発

最後に、精練した就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムを、がん患者を対象に実施し、その実現可能性を検証した。

### 4. 研究成果

#### 研究 1：就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムの考案

##### (1) がん患者を対象とした就労継続・職場復帰に関する文献レビュー

###### 第 1 段階：

がん患者に焦点を当てた就労継続・職場復帰に関する心理教育的支援の支援内容を明らかにするため、Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL) in the Cochrane Library、PubMed、CINAHL (EBSCO)、医学中央雑誌 web 版の文献データベースを用い、文献検索を行った (Kobayashi Met al, 2022)。その結果、「健康状態や就労状況のアセスメント」「就労に関する問題や困難について話し合う」「知識の提供」「情緒的な支援」「仕事やお金 / 治療計画に関する専門家の紹介」などの支援が明らかとなった。

###### 第 2 段階：

就労を継続している通院治療中の就労世代のがん患者の体験を明らかにし、就労継続に関連する要因を特定するため、医学中央雑誌 Web のデータベースを用い、文献検索を行った。その結果、〔がん患者自身に向けられた認知的な体験〕、〔周囲の人々との対人関係による体験〕、〔がん患者を取り巻く環境による体験〕などの体験の特性があることが明らかとなった。また、これらの体験特性に基づき、就労継続に関連する要因が明らかにした。

###### 第 3 段階：

第 1 段階と第 2 段階の結果を統合し、がん患者に生じている現象を自己効力感の概念枠組みを理論的な基盤とした看護支援モデルを構築し、そのモデルに基づいた看護支援プログラムを考案した。

#### 研究 2：就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムの精練

考案したがん患者に対する看護支援プログラムの内容を精練するため、専門看護師や認定看護

師を含む臨床経験5年以上の看護師を対象に、フォーカスグループインタビューを実施した。得られた結果から、看護支援プログラムの適切性について検討し、看護支援プログラムの内容を精練した。

研究3：就労を継続する通院治療中のがん患者に対する看護支援プログラムの開発  
 看護支援プログラムの実現可能性の検証するために数名のがん患者を対象に看護支援プログラムによる介入を実施した。その結果、本看護支援プログラムは、就労を継続する通院治療中のがん患者に対し活用でき、実現可能性があることが示唆された。

#### 【開発した看護支援プログラム】

本看護支援プログラムは、自己効力感を向上する看護の指針の中心概念として位置付けたものである。介入方法は、以下の指針に基づいた面談による支援を看護師主導で行う介入である。介入の指針は、『就労継続に関連する要因のアセスメント』、『就労に関連する問題や困難の話し合い』、『治療情報を主体とした就労における知識の提供』、『専門家の紹介』を組み合わせたものである。支援の提供は、個室による個別面談により提供し、専門看護師や認定看護師を含む臨床経験5年以上の看護師によって行う。1回目の面談では、看護支援プログラムに基づき30～60分の面談を実施する。2回目の面談は、1回目の面談1ヶ月後に行い、1回目の面談後の出来事をリフレクションすることを議題の中心とし、「就労継続に関連する要因の再評価」「初回面談時に焦点となった問題や困難の話し合い」「初回面談の介入方法と同様」という看護の指針に基づき看護支援看護支援プログラムに基づき、10～30分の面談を実施する。

表1. 看護支援プログラムによる介入方法

	介入方法	支援者	場所	手段	所要時間
session 1	[自己効力感を向上する看護の指針] ・ 就労継続に関連する要因のアセスメント ・ 就労に関連する問題や困難について話し合い ・ 治療情報を主体とした就労における知識の提供 ・ 専門家の紹介(必要時)	看護師	個室	1対1による個別面談	30-60分
session 2	[Reflectionが中心] ・ 就労継続に関連する要因の再評価 ・ 前回の面談時に焦点となった問題や困難の話し合い ・ 初回面談の介入方法と同様	看護師	個室	1対1による個別面談	10-30分

#### 5. 本研究の強みと今後の課題

本研究の強みは、通院治療中のがん患者に対する就労継続への看護支援を検討するため、看護支援の在り方、及びがん患者の様相を導き出し、自己効力感の理論を基盤とした看護支援プログラムを考案・精練・実現可能性の検証の過程を丁寧に経ることで、科学的なエビデンスに基づいた看護支援プログラムを開発したことである。具体的には、国内外のすべての文献を対象に包括的な文献レビューを行い看護支援の在り方を導き出すとともに、我が国における就労を継続するがん患者の体験に関する文献レビューを行いがん患者の体験から就労継続に関連する要因を特定した。また、これらの研究結果を統合し、自己効力感の理論を基盤とした看護支援プログラムを考案した。さらには、考案した看護支援プログラムの適切性を看護実践経験が豊富なエキスパートの観点から精練し、最終的にはがん患者を対象に精練した看護支援プログラムを実践することでその実現可能性を検証し、看護支援プログラムを開発した。

今後は、開発した看護支援プログラムを基にRCTを実施し、介入の有効性を検証することが重要と考える。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Kobayashi Masamitsu, Kako Jun, Kajiwara Kohei, Ogata Ayako	4. 巻 29
2. 論文標題 Regarding: Humayra Rashid et al. (2020) Returning to work in lung cancer survivors? a multi-center cross-sectional study in Germany. Supp Care Cancer; Published 19 November 2020	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 4183 ~ 4184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00520-021-06007-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kobayashi Masamitsu, Kako Jun, Kajiwara Kohei, Ogata Ayako	4. 巻 127
2. 論文標題 The effects of curative intent cancer therapy on employment, work ability, and work limitations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancer	6. 最初と最後の頁 3031 ~ 3032
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cncr.33569	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Kobayashi Masamitsu, Kako Jun, Kajiwara Kohei, Ogata Ayako	4. 巻 14
2. 論文標題 Letter to the Editor in response to Greidanus et al., June 2020, "The Successful Return-To-Work Questionnaire for Cancer Survivors (I-RTW_CS): Development, Validity and Reproducibility"	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 The Patient - Patient-Centered Outcomes Research	6. 最初と最後の頁 139 ~ 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40271-020-00470-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小林 成光、長坂 育代、増島 麻里子	4. 巻 35
2. 論文標題 就労世代のがん患者のがん罹患後から離職に至るまでの体験の過程	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 n/a ~
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18906/jjscn.35_10_kobayashi	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi Masamitsu, Kako Jun, Kajiwara Kohei, Ogata Ayako	4. 巻 n/a~
2. 論文標題 Regarding: Humayra Rashid et al. (2020) Returning to work in lung cancer survivors? a multi-center cross-sectional study in Germany. Supp Care Cancer; Published 19 November 2020	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Supportive Care in Cancer	6. 最初と最後の頁 n/a~
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00520-021-06007-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林成光, 池原弘展, 友滝愛, 賢見卓也	4. 巻 14
2. 論文標題 仕事とお金の個別相談に参加したがん患者とその家族が抱える経済的な悩み: テキストマイニングによる相談内容の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Palliative Care Research	6. 最初と最後の頁 139-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2512/jspm.14.139	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masamitsu Kobayashi, Jun Kako, Kohei Kajiwara, Yasufumi Oosono, Noto Hiroko	4. 巻 -
2. 論文標題 Comment on: "Predicting return to work among patients with colorectal cancer."	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 British Journal of Surgery	6. 最初と最後の頁 318
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/bjs.11485	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林成光, 長坂育代, 増島麻里子	4. 巻 -
2. 論文標題 就労世代のがん患者のがん罹患後から離職に至るまでの体験の過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本がん看護学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林成光	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 仕事とお金の個別相談に参加したがん患者と その家族が抱える経済的な悩み：テキストマイニングによる相談内容の分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Palliat Care Res	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kobayashi Masamitsu, Sezai Izumi, Ishikawa Takako, Masujima Mariko	4. 巻 73
2. 論文標題 Psychological and educational support for cancer patients who return to work: A scoping review	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Work	6. 最初と最後の頁 291 ~ 300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3233/wor-205326	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Masamitsu Kobayashi, Izumi Sezai, Takako Ishikawa
2. 発表標題 Psychological and educational support for return to work in cancer patients: a systematic review
3. 学会等名 The 23rd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------